

2018-2019年度版刊行に際して

2025年まであと7年です。わが国ではそれまでにいろいろなことを変革していかないと、現役世代にとつてもない負担をかけることになり、将来に暗い影を落とすことになるのです。いろいろなことの中でも最も変革していかなければいけないのは、社会保障の分野であるということに異論を唱える人は少ないでしょう。

例をあげれば、2年ごとに実施されてきた薬価改正は事実上これからは毎年実施されることとなり、いままでよりも薬の価格は低く抑えられることとなります。もちろん、さらに後発医薬品のシェアが拡大するように診療報酬も改正されています。一方、C型ウイルス肝炎治療薬のように画期的な薬も登場し、それに伴い薬物治療の内容も変化してきました。

この本は2年ごとに改訂が行われてきましたが、今回の改訂作業に際して正直感じたことは、いままでのどの改訂作業よりも大変だったということです。それはそれだけ大きな変化があったということなのです。

今回の主な改訂ポイントは以下のとおりです。

- 「がん性疼痛治療薬」「注意欠如多動性障害（ADHD）治療薬」の項目を新たに加えたこと
- 全ての項目について必要とされる新規医薬品の追加，発売中止の医薬品の削除のほか，診断基準の追加あるいは差し替えなどを行ったこと
- とくに「便秘の治療薬」「下痢の治療薬」「肝疾患治療薬」「リウマチ治療薬」「全身性エリテマトーデス治療薬」「脂質異常症治療薬」「インフルエンザ治療薬」「うつ病の治療薬」「てんかんの治療薬」「認知症治療薬（アルツハイマー型）」の項目では，新規医薬品の追加に伴う薬物治療についての最新知見を反映させたこと
- 紙面の彩りを各セクションごとにまとめ，より見やすく読みやすいようにしたこと

この本が医療にかかわる人々に読まれ，それを患者さんの治療に少しでも活かされれば，私にとってこんな幸せなことはありません。

2018年5月

中原 保裕